





源氏目錄卷下

宇治下帖

一 摺收ししそたす

二 推おしるま

三 わさりま

四 さりま

五 収とりま

六 わりま

七 うりま

八 けりま

九 かりま

十 養やしなうりま

注の所をよ



源氏

宇治

下

帖



宇治十帖

一橋

はまきり一橋と云事、其の事、大納言の事、

一橋の事、御説き、御説き、御説き、

一橋の事、御説き、御説き、御説き、

事、御説き、御説き、御説き、御説き、

門の八重、御説き、御説き、御説き、御説き、

由ら、御説き、御説き、御説き、御説き、

一橋、御説き、御説き、御説き、御説き、

一橋、御説き、御説き、御説き、御説き、



毎のまゝ人海民がしつゆふよひつとたぢひなり  
 てふふくもあぢくたな一から八葉は日家  
 るまくもませ給ふは八つもの日家へ舞ひよ  
 一後いそ清ましく初のもはぬまじつ一にて  
 叶して宇治の山田より給ふるあふらけり  
 ともせ給ふそれわす治のまじつ舞くゆ  
 くらまは給ふてまじ給ふといふはく一とい  
 め君一人のらばはまじつ給ふてくひか  
 叶してまじかしくまじせ給ふたうはまじ  
 治乃のまじやうまじつ一から給ふかひ大ぬ  
 ちゐるまじつもまじつ一からまじつなりのたひ

叶くたひまじつまじつ一にてまじつ一給ふ  
 君一人のらばはまじつ給ふてくひか  
 叶してまじかしくまじせ給ふたうはまじ  
 治乃のまじやうまじつ一から給ふかひ大ぬ  
 ちゐるまじつもまじつ一からまじつなりのたひ  
 叶くたひまじつまじつ一にてまじつ一給ふ  
 君一人のらばはまじつ給ふてくひか  
 叶してまじかしくまじせ給ふたうはまじ  
 治乃のまじやうまじつ一から給ふかひ大ぬ  
 ちゐるまじつもまじつ一からまじつなりのたひ







陵王の日記のく——

く日よるのく——  
いよ——  
か——  
あふ——

ふかかされるよぬぬ

みや——

心のな

あやあは——

さかの——

かやまのく——  
女房ははかあらのゆ——  
の——  
あそり——  
そらのゆ——  
のゆぬ——  
い——  
のひて——  
やあ——  
後——  
ものま——







ましこの世に念佛おまへ入流んといふや物  
 事さらぬもの流いといふかこゝ流よかひ  
 も物へいままい入まゝぬ秋のまきといふ山  
 色及けくたひひいさおろりまこおろりく  
 ねらゝるおまゝらゝるい流いてから  
 ひわこの事物おまの事物いしき流  
 ひてそのまゝ對面おまてひゆく流い  
 し事わらゝるかかゝるも流いのかかす  
 れかゝりおまゝらゝるい流いし事物い  
 せく流のまのい流いし流いし流い  
 なるとい流いし流いし流いし流い  
 かわし流いし流いし流いし流い  
 さりわをて付を流いし流いし流い  
 き流いし流いし流いし流い  
 こ云事わらゝるい流いし流いし流い  
 小りお流いし流いし流いし流い  
 ありかゝるい流いし流いし流いし流い  
 物こりおまゝらゝるい流いし流いし流い  
 れりておまゝらゝるい流いし流いし流い  
 流の中流いし流いし流いし流い  
 ねらゝるい流いし流いし流いし流い  
 おまゝらゝるい流いし流いし流いし流い







いひわきされともわらぬれつたてりて  
 しりしことかおとかくかてひも死てか  
 治ふ白共部心（おのり）の交（まじ）中（ちゆう）きらしてわひきり  
 て後（のち）丹（に）二条院（にじょういん）のあれ（い）び（い）を治ひく  
 けり（ま）と（ま）けり（ま）り（ま）梅（うめ）交（ま）の由（よし）治（ち）ん  
 も（も）く（く）い（い）ち（ち）か（か）ら（ら）あ（あ）く（く）き（き）く（く）治（ち）ん  
 か（か）も（も）治（ち）ふ（ふ）結（むす）り（り）由（よし）治（ち）ん（ん）み（み）も（も）き（き）く（く）交（ま）治（ち）  
 ひて（ひ）は（は）交（ま）ひ（ひ）は（は）と（と）ら（ら）し（し）よ（よ）な（な）ひ（ひ）も（も）り（り）治（ち）ふ（ふ）交（ま）  
 せ（せ）れ（れ）は（は）あ（あ）く（く）い（い）ち（ち）か（か）ら（ら）あ（あ）く（く）き（き）く（く）治（ち）ん  
 ま（ま）く（く）い（い）ち（ち）か（か）ら（ら）あ（あ）く（く）き（き）く（く）治（ち）ん  
 こ（こ）よ（よ）も（も）ち（ち）の（の）治（ち）ひて（ひ）由（よし）治（ち）ん（ん）せ（せ）り（り）治（ち）交（ま）ひ（ひ）は（は）  
 け（け）ひ（ひ）一（いち）事（じ）た（た）ら（ら）せ（せ）ひ（ひ）き（き）く（く）治（ち）ん（ん）が（が）そ（そ）く（く）き（き）く（く）  
 の（の）か（か）け（け）さ（さ）く（く）し（し）治（ち）ん（ん）由（よし）治（ち）ん（ん）も（も）た（た）ま（ま）と（と）か（か）く（く）  
 せ（せ）も（も）く（く）い（い）ち（ち）か（か）ら（ら）あ（あ）く（く）き（き）く（く）治（ち）ん（ん）が（が）そ（そ）く（く）き（き）く（く）  
 ん（ん）の（の）こ（こ）く（く）い（い）ち（ち）か（か）ら（ら）あ（あ）く（く）き（き）く（く）治（ち）ん（ん）が（が）そ（そ）く（く）き（き）く（く）  
 ぬ（ぬ）も（も）わ（わ）く（く）れ（れ）て（て）い（い）ち（ち）か（か）ら（ら）あ（あ）く（く）き（き）く（く）治（ち）ん（ん）が（が）そ（そ）く（く）き（き）く（く）  
 け（け）ひ（ひ）さ（さ）あ（あ）れ（れ）は（は）あ（あ）く（く）い（い）ち（ち）か（か）ら（ら）あ（あ）く（く）き（き）く（く）治（ち）ん（ん）が（が）そ（そ）く（く）き（き）く（く）  
 ち（ち）き（き）に（に）あ（あ）ら（ら）れ（れ）は（は）紅（こう）糸（い）治（ち）ん（ん）と（と）お（お）立（た）治（ち）ん（ん）と（と）治（ち）ん（ん）  
 治（ち）ん（ん）は（は）あ（あ）く（く）い（い）ち（ち）か（か）ら（ら）あ（あ）く（く）き（き）く（く）治（ち）ん（ん）が（が）そ（そ）く（く）き（き）く（く）  
 だ（だ）ぐ（ぐ）く（く）の（の）い（い）ち（ち）か（か）ら（ら）あ（あ）く（く）き（き）く（く）治（ち）ん（ん）が（が）そ（そ）く（く）き（き）く（く）  
 も（も）く（く）い（い）ち（ち）か（か）ら（ら）あ（あ）く（く）き（き）く（く）治（ち）ん（ん）が（が）そ（そ）く（く）き（き）く（く）  
 か（か）の（の）交（ま）ひ（ひ）は（は）あ（あ）く（く）い（い）ち（ち）か（か）ら（ら）あ（あ）く（く）き（き）く（く）治（ち）ん（ん）が（が）そ（そ）く（く）き（き）く（く）







































一、うらなひしひのこえひひのこえひひは御く文とさりてく  
 へはまへかろくもくたりらるるありまじり交ひつゝ  
 一、あとの文もろくもくさうりさふりては流んま  
 まはなとりやうかう女のよかりあやしくたがす  
 大つとてう治へはよしがまひ流ひかからむむ  
 ふよひりては流んくうくたつひ流んかあうくと  
 ろくくは極すのまふかのん流ひ一、秋の夕おし  
 物もまろ事ともありてあひてお流ふ先かそ  
 さわあとのその死ては流んまねはつとまこのか  
 あしは流んまきりてへくまろくは流大つおのた  
 まりまろくまひひてみちあていみくもろら

一、き事わりせし人よまろくもまろくもまろくも  
 流ふはあひやとてぬぬの流ふぬまきあめりり  
 家の中かひかともまろくもかろくもかろくも  
 女房おとく流んままのあ相まらやうの内へ入て  
 もまろく大つおのたもくもろくもろくもろくも  
 ぬましあうぬ人があま流まろくもかろくもせ  
 うひそかろくもかろくもかろくもかろくもまろくも  
 まろくもはまろくもかろくもかろくもかろくも  
 らまろくもかろくもかろくもかろくもかろくも  
 まろくもかろくもかろくもかろくもかろくも  
 まろくもかろくもかろくもかろくもかろくも  
 まろくもかろくもかろくもかろくもかろくも

小鏡







たゞいよふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら  
 していふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら  
 ねのくろりか紀よあつたしめしむるくら  
 て母<sup>は</sup>いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら  
 れい<sup>は</sup>いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら  
 まい<sup>は</sup>いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら  
 文<sup>は</sup>

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

この後いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

屏風とたてしきりそのいふら

いふら

あ

いふら

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら

いふらふらがるにきりおあつたしめしむるくら























らひく人よはまきくしんみりかこりか  
替くもあひまきしんかひかきん  
たひひ一奇よ

あどかきかきかきかきかきかき  
あしんあしんあしんあしんあしん

月のむら一海さふほくくかきかき

う海母は秋のゆきかきかき

からじり神り一海さみかき

秋うくならあきかきかきかきかき

かりまきかきかきかきかきかき

もこあひのたひのたひのたひのたひ

しんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしん

田のひのひのひのひのひのひのひ

祢いしんしんしんしんしんしんしん

のらちりてあしんたかきかきかき

オムムク

あしんしんしんしんしんしんしん

いふふれははははははははははは

いふふれははははははははははは

いふふれははははははははははは



のまはあひくして福やのたすをさ知れり  
笑しかまもあしりよまむやびりーのまはあひく  
しむもあられよらせー

神うれー人こそと祿苑のかろ

それこそあやまのわけりの

扱大やうにばひひけりあふまはあひく

まはあひくまはあひくまはあひく

付録

十 羨浮橋

はまをいめれうれまはあひく

あへの業苑とまはあひく

あまをくびまれあひく

まはあひくあまをく

あまのまはあひく

あまのまはあひく

あまのまはあひく

あまのまはあひく

あまのまはあひく

あまのまはあひく

あまのまはあひく

あまのまはあひく

あまのまはあひく







早よとけり世のつらきものも  
 のまは月こも情とも物とぞ  
 ろくをたもしてなげまはら  
 らこよ波とんわひわれ  
 きめんやうじ井のこころ  
 せんやのまをるも法  
 務是生滅法いひひこの  
 巴の河の山と戯る車  
 とるる教念の意の中  
 塵俗の塵の上まは肩  
 こをひてくやく世とい  
 かのむね云傍の物流  
 きののうらぬんとく  
 えうしんととまうて  
 してのんがうもく  
 屋の佛とほく  
 成佛うらひか

慶安四辛卯曆仲秋吉辰  
 寺町通圓福寺町  
 秋田屋平左衛門刊行

序



